

LESSON 19

グループ間の関係性について

- ・【対立関係】税金の使途をめぐる「公共交通利用者」と「自動車利用者」バス路線を必要不可欠とする「1. 生活に直結する切実な声」や「2. 利便性向上への要望」のグループと、「5. 自動車利用者の視点」のグループには明確な対立構造があります。公共交通の維持を切望する声がある一方で、車を毎日利用する層からは「コミュニティバスが赤字だと聞きました。税金を使って維持するより、その分を道路整備に回してほしい」、「公共交通よりも、まず道路の渋滞を何とかしてほしい」といった声が上がっており、限られた予算の配分をめぐる意識の違いが生じています。
- ・【因果関係】行政のコミュニケーション不足が悪化させる「市民の不便と不安」「7. 行政への不満と要望」で指摘されている市の情報発信不足や一方的な姿勢が、他のグループの課題を引き起こし、悪化させています。「なぜ廃止なのかの説明もなく、いきなり『廃止します』というお知らせが来た」という対話不足が、「1. 生活に直結する切実な声」における極度な不安を生み出しています。また、路線について「どこを走っているかも知りませんでした」という周知不足や時刻表の複雑さが、「2. 利便性向上への要望」で指摘される使い勝手の悪さやコミュニティバス未利用の直接的な原因となっています。
- ・【共通テーマ】「将来のまちづくりと若者の定住」「3. 将来への投資」「4. 新しい移動手段」「6. 関連施策への意見（駅前再開発）」の3つのグループは、市の持続可能性という共通テーマで結びついています。現在の利便性だけでなく、「学生や若い人が住みやすい街にしたい」という目的のもと、電動キックボードなどの新しいモビリティの導入や、将来を見据えた公共交通網への投資、駅前の活性化が求められています。

最も優先度が高い課題グループとその根拠

最も優先度が高い課題は、「1. 【生活に直結する切実な声】路線廃止・減便への強い不安と反対」（および直結する行政の説明不足）です。

根拠（アンケート回答の原文より）：市民の生存や最低限の生活の維持が脅かされる事態に直面しており、状況が極めて切迫しているためです。

- ・ 高齢者の命と健康に関わる切実な危機感: 「3年前に免許を返納しました。以来、バスがないと本当に生活できません。北部の路線が廃止になると聞いて、どうすればいいのかと毎日心配しています。病院に行くのもバスがなければタクシーしかなく、費用がかかりすぎます」。さらには、「バスがなくなったら死んでしまいます（大げさではなく本当に）。病院の定期受診ができなくなる」と、通院の足が奪われることへの悲痛な叫びが寄せられています。
- ・ 子育て世代への打撃と地域の孤立化: 高齢者だけでなく、「北部のバスが廃止になると、子どもを学校に連れて行けません」という通学手段喪失への懸念や、「うちは東部なので、バスがなくなると本当に孤立します」といった地域全体の孤立化リスクが指摘されています。

このように市民の基本的生活を揺るがす事態に対して、代替手段の提示や住民説明会すら開かれていない状況は行政への不信を決定的なものにする恐れがあり、最優先で誠実な対応が求められる課題です。

これらの分析結果をもとに、市幹部への報告や政策提言用として、この優先課題に焦点を当てた詳細なレポートを作成しましょうか？